

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-11C	21-022	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol drinking and risks of total and site-specific cancers in China: A 10-year prospective study of 0.5 million adults 中国における飲酒と全癌および部位別癌のリスク:成人 50 万人を対象とした 10 年間前向き研究		
執筆者		
Im PK, Millwood IY, Kartsonaki C, Chen Y, Guo Y, Du H, Bian Z, Lan J, Feng S, Yu C, Lv J, Walters RG, Li L, Yang L, Chen Z; China Kadoorie Biobank (CKB) Collaborative Group.		
掲載誌		
Int. J. Cancer. 2021;149:522–534. doi: 10.1002/ijc.33538		
キーワード		PMID
アルコール、がん、中国、コホート研究、飲酒パターン		33634874
要 旨		
<p>目的: 飲酒はいくつの特異的な癌のリスク上昇と関連しているが、他の癌における関連は明らかにされていない。がん罹患率、飲酒パターン、アルコール耐性が欧米と異なる中国では、がんの病因としてのアルコールについて包括的な評価が必要であり、それらを明らかにすることを目的とする。</p> <p>方法: 2004~2008 年にかけて、中国 10 地域の 30~79 歳の 512,715 名 (中国カドリーバイオバンク (CKB) 登録者) に対し、標準化された質問票によってアルコール摂取パターンを調査し、10 年間追跡した。対象者を非飲酒者 (飲酒歴なし)、過去飲酒者 (直近 1 年の飲酒歴はないが過去に飲酒あり)、機会飲酒者 (直近 1 年で週 1 回以下の飲酒あり)、現在飲酒者 (直近 1 年間に週 1 回以上の飲酒あり) に分類し、現在飲酒者には飲酒頻度・種類・量、食事に関連した飲酒時間、フラッシングの有無を追加質問した。がん発症は、がん登録および国民健康保険データベースとの連携により収集した。Cox 回帰モデルにより、飲酒量によるがん発症ハザード比 (HR) および 95%信頼区間 (CI) を算出した。</p> <p>結果: 10 年間の追跡の結果、26 961 人ががんを発症した。男性の 33% (n=69 734) がベースライン時に現在飲酒者であった。現在飲酒男性において、飲酒量が多いほど、食道 (HR=1.98 [95%CI 1.79-2.18]、280g/週増加当たり [以下同様])、口および喉 (1.74[1.79-2.18])、肝臓 (1.52 [1.31-1.76])、結腸直腸 (1.19 [1.00-1.43])、胆嚢 (1.60 [1.16-2.22]) と肺 (1.25 [1.10-1.42]) ががんのリスクが高く、これらの関連は、喫煙者と非喫煙者で同様であった。また、現在飲酒男性において、総アルコール摂取量を調整後も、毎日飲酒する者で食道癌のリスクは高く (HR 1.74, 95%CI 1.38-2.20)、食事を伴わない飲酒者で肝臓癌のリスクが高かった (HR 1.31, 95%CI 1.02-1.68)。さらに、男性において、フラッシング反応有の方が、飲酒量増加による食道がんと肺がんリスクが高かった。一方、女性では、飲酒とがんリスクとの間に明確な関連は見られなかった。</p> <p>結論: 中国人男性では、飲酒は複数の部位におけるがんのリスク増加と関連した。また、食事を伴わない飲酒など特定の飲酒パターンやアルコール耐性が低い場合、さらにはがんリスクを増加させる可能性が示唆された。</p>		